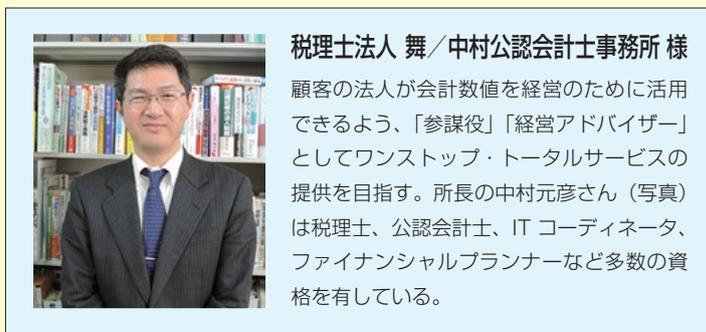




お客様に提供する「知的サービス」の生産効率が大幅に向上 税理士法人 舞／中村公認会計士事務所 様

「税理士法人 舞」と「中村公認会計士事務所」は、ともに税理士で公認会計士の中村元彦さんが所長を務める事務所だ。主要業務は、顧客である企業に税務・会計的な視点から有用なアドバイスを送ること。中村さんは『ScanSnap』と「^{らくらく}楽^{らくらく}2 ライブラリ Smart」を活用し、その知的サービスの効率化と質的向上を実現している。



税理士法人 舞／中村公認会計士事務所 様
顧客の法人が会計数値を経営のために活用できるよう、「参謀役」「経営アドバイザー」としてワンストップ・トータルサービスの提供を目指す。所長の中村元彦さん（写真）は税理士、公認会計士、IT コーディネータ、ファイナンシャルプランナーなど多数の資格を有している。

『ScanSnap』と「^{らくらく}楽^{らくらく}2 ライブラリ Smart」のコンビネーションで「脳の拡張」を実現

『SV600』で冊子状の重要書類をスキャンする

中村元彦さんが所長を務める「税理士法人 舞」と「中村公認会計士事務所」の顧客は、上場企業や公益法人を含む40～50社の法人だ。中村さんがそれら顧客に提供するものは、主に税理士と公認会計士の目を見た経営面でのアドバイス。それらはデリケートで機密性も高い、高度な知的サービスといえるものだ。

「税理士としての業務では、税務指導や申告書作成に加え、将来の会計数値や資金面を予測したアドバイスを意識しており、最近では様々な税制を利用し業績向上につながり税制上も有利な設備投資のアドバイスを行うことが増えてきています。公認会計士としては企業再生やM&Aに関する分析やアドバイス及び監査があります」
こうしたサービスでは、先を見据えた客観的なアドバイスを行うために、顧客のもとにある書類を詳しく読み込む必要が生じる。設備投資ならば仕様関連の資料、会計的なアドバイスならば契約書や決算書などの重要書類だ。



さいたま市の事務所に「iX500」と「SV600」を並べて設置。スキャンする書類の形態に応じて使い分けしている。

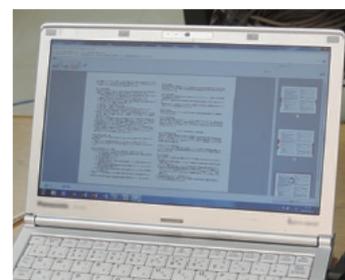
ここで活躍するのが、さいたま市の事務所に常備している2台の『ScanSnap』（iX500）と「SV600」のうち、非接触で読み取る「SV600」。中村さんは「SV600」を専用キャリーバッグに入れて客先まで運び、持ち出せない書類をスキャンしてデータを持ち帰り、分析のために役立てているのだ。



専用キャリーバッグ（ハード電子製）に「SV600」を収める。

普段の移動は電車。キャリーバッグに入れた「SV600」をキャスター付きスーツケースの上に載せれば持ち運びも苦にならない。

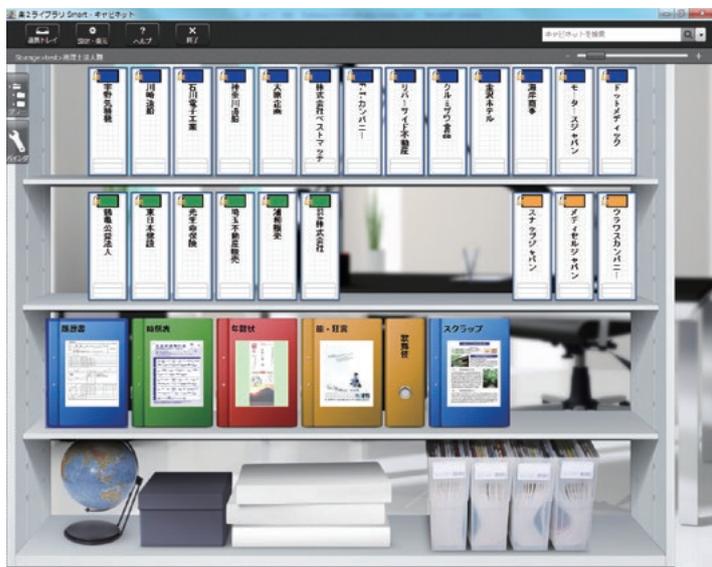
「様々な書類の中で、契約書などの多くは冊子状で、それも袋綴じになっていたり、割印を押して製本されていたりします。『SV600』があればそれらを冊子のまま、原本の色も含めてその場でスキャンできます。これはものすごく大きな利点です。お客様にカラーコピーをお願いすることは避けたいものですから。もちろん、スキャンしたデータはセキュリティを相当高くして保持する必要がありますので、そこには細心の注意を払います」
これらのデータを、中村さんはある方法で効率的に整理している。『ScanSnap』のオプションのファイリングソフトウェア「^{らくらく}楽^{らくらく}2 ライブラリ Smart」を活用するのだ。



左：スキャンは袋綴じの書類を開いて置くだけ。右：冊子を押さえた指は補正機能で簡単に消せる。

『楽²ライブラリ』の活用は「脳の拡張」に等しい

知的サービスの生産効率を上げるポイントは「『楽²ライブラリ』で何をどのように整理するか」にあると中村さんは言う。「『楽²ライブラリ』が素晴らしいのは、まず紙と電子ファイルの別を問わずに、とにかく1つにまとめて整理できるということです」中村さんが『楽²ライブラリ』に入れるのは、客先でスキャンした書類などのほかに、顧客の企業に関わるwebニュースのクリップなど。これらを顧客名などで分けたバインダに収納する（セキュリティ重視のため中村さん専用のローカルなPC環境で利用）。こうしておけば顧客に対して経営面でのアドバイスなどを行う際、関連情報を漏らすことなく総合的に閲覧・分析できるため、サービスの効率と質が向上するのだ。



『楽²ライブラリ Smart』のメイン画面。実際のキャビネットとバインダのイメージを再現しているため、整理状況を視覚的に把握しやすい。（バインダは中村さんの使い方をイメージして作成したもので実際とは異なります）。

「実際のキャビネットとバインダを再現した見た目もいいですね。『上段のこのあたりにあったな』と、本物と同じ感覚でファイルを探るので、PCのフォルダよりもはるかに使いやすいと感じます。そして何とんでも重要なのは検索機能です。実際のキャビネットには検索という概念はありませんが、『楽²ライブラリ』に保存しておけば瞬時の検索が可能です」

中村さんが『ScanSnap』で書類をスキャンするときはテキスト認識をオンにしているので、全データが検索対象になる。

「『楽²ライブラリ』を使うことは、脳に外部記憶装置を取り付けることに等しいといえます。いわば『脳の拡張』です」

『楽²ライブラリ』は出張時にも有用

「楽²ライブラリ」は出張時にも力を発揮する。「モバイル連携のメニューがあり、バインダ単位でiPadに入れて持って行けるので、非常に便利です。また出張に限らず、出先から事務所に電話を入れて『キャビネット何段目にある資料を探して!』といったやり取りをする必要がなくなったことも、大きな効率化の一つです」

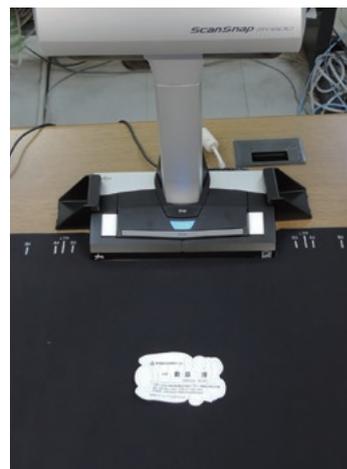
中村さんの仕事ではセキュリティの確保が第一となるため、現時点ではクラウドの利用ができない。そのため『楽²ライブラリ』の重要性はいっそう高まっており、飛行中の機内や電波の届きにくい場所でも活用できるという点で、むしろクラウドより使いやすい「中村さん専用のポケット」にもなっているのだ。

2台の『ScanSnap』を使い分けて名刺をスキャン

中村さんは『ScanSnap』による名刺管理も行っている。「普通の名刺は『iX500』で一気に読み取って、最近増えている変型の名刺や三つ折りの名刺は大事をとって『SV600』でスキャンします。名刺管理ソフトは『ScanSnap』同梱の『CardMinder』を利用しています」

「CardMinder」は名刺画像をテキスト変換しデータベース化してくれるので、今後は顧客リストの作成や筆ソフトと連携させて年賀状の宛名印刷にも利用していきたいという。

このように『ScanSnap』と連携ソフトウェアを臨機応変に活用することが、中村さんの業務を大きく効率化している。それとともに顧客の経営戦略において中村さんが果たす役割も、ますます重要性を増していくことだろう。



定型の名刺は『iX500』で連続スキャン（左）し、変型名刺は『SV600』でスキャン（右）。『SV600』は複数枚の名刺を置いて1枚ずつクリップする機能を備えている。

【著作権について】 著作権の対象となっている新聞、雑誌、書籍等の著作物は、個人的または家庭内、その他これらに準ずる限られた範囲内で使用することを目的とする場合など、著作権法で定められた例外を除き、権利者に無断でスキャンすることは法律で禁じられています。なお業務利用では、著作権者の許諾が必要となることがありますので、著作権法、およびご利用になる企業や団体で定める利用規則等に従って利用して頂くようお願いいたします。本事例におけるスキャンは、私的使用の範囲が、または、著作権法上問題のない資料等が対象とされています。

販売店

【お問い合わせ先】 株式会社PFI イメージング サービス&サポートセンター
TEL: 050-3786-0811
<受付時間> 月～金曜日 10時～12時、13時～17時（当社休業日除く）
E-mail: scanners@ml.ricoh.com

ScanSnapに関する詳細はこちら
<https://www.pfi.ricoh.com/scansnap/>